

決 議

東日本大震災で被害を受けたみなさまに、心からのお見舞いを申し上げます。

私たち原爆被爆者は、とくに、福島第1原子力発電所の事故で放射線被害をつくりだした政府、東京電力の責任を許すことができません。「安全神話」をばらまき、結果として国民に、世界に、多大の損害と不安をもたらしている責任を厳しく糾弾し、放射能の放出拡散による損害を全面的に賠償するよう要求します。原子力に依存している電力・エネルギー政策の大転換を要求します。

原爆投下から66年たち、被爆者は老いました。私たちは、この間叫び続けてきた「核兵器をなくせ」「原爆被害に国の償いを」の要求が、いまだ実現していないことに心を痛めています。

「核なき世界」への歩みは、確かに進んでいるように見えます。しかし、新たな核兵器を開発しようとする動き、新たに核兵器を所持しようとする国があることを残念に思います。核兵器は削減すればいいのではないのです。1発残らずなくすこと、1発たりともふたたびつくりたくないこと。これが、ヒロシマ・ナガサキの貴重な教訓です。昨年の核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議で提起された核兵器全廃のための条約を結ぶ交渉・会議を、1日も早く始めてください。

日本被団協が、結成以来、日本政府に対し原爆被害者への国家補償を要求し続けてきたことによって、生存被爆者への援護施策は前進してきました。しかし、原爆被害者への国の謝罪と償いはまだ実現していません。原爆の最大の犠牲者である原爆死没者への償いは、これを実施すれば、戦争犠牲者すべてに償いをしなければならなくなるという口実で、かたくなに拒まれ続けています。国の責任で起こした戦争でもたらされた犠牲を、国が償うのは、世界の常識です。私たちは強く、「原爆被害者への国の償い」を要求します。

わたしたちは、国民のみなさん、世界のみなさんに訴えます。

核兵器は人類絶滅しかもたらしません。被爆者が生きているうちに核兵器が全廃できるように、力をあわせて運動を広げましょう。

原爆死没者への償いは、2度と戦争を起こさせない道につながります。戦争犠牲者を出させないために、償いの実現を求めましょう。

被爆者が生きているうちに被爆体験を聞き、語り継ぎ、書き残し、映像に写し取るとともに、被爆者の運動を「記憶の世界遺産」にしていきたいと思います。

2011年6月8日

日本原水爆被害者団体協議会第56回定期総会